令和5年度

# グアム・サイパン国際交流体験ツアー報告書

千代田区

# 国際平和都市千代田区宣言

地球は 生命が息づく かけがえのない星
この地球を 平和と希望にみちた
輝く星にしよう

過去 私たちは 戦争を経験した
多くの人びとが傷つき 犠牲となった
二度と戦争が起こることのないように
かたく誓い いつまでも 後世に伝えていこう

現在 世界の各地で まだ争いがある
飢えで 苦しんでいる人びとがいる
地球環境の破壊が つづいている

今はもう自分たちだけの平和と安全を
考える時代ではない

国際都市千代田区に住み 働き 学ぶ私たちは
世界の人びとと 連帯して 核兵器をなくし
平和な世界を築きあげよう

未来に向かって 世界の人びとと 友好を深め
同じ地球の仲間として お互いを理解しあおう

私たちは 世界の恒久平和を 実現するために
積極的に 行動することを
ここに宣言する

平成７年３月15日
千代田区

# はじめに

千代田区は、「国際平和都市千代田区宣言」に基づき、区民参加の海外事情調査事業（国際交流体験ツアー）を平成 14 年（2002 年）度から実施しています。この事業は、区民の国際理解の推進と世界の恒久平和の実現に向け、区内の青少年を海外に派遣し、その国の現場視察を通じて環境・貧困・平和・人権等、人類が抱えている共通の課題に対し主体的に考え、積極的に行動していける人材の育成を図り、あわせて地域社会における国際交流・協力の推進を図ることを目的としています。

令和５年（2023 年）度は、12 月 11 日から 12 月 16 日までの６日間、公募により選ばれた区内の高校生７名、大学生４名、社会人１名の計 12 名を、グアム･サイパンへ派遣しました。現地では、太平洋戦争記念館、北マリアナ諸島歴史文化博物館、バンザイクリフ、スーサイドクリフなど、第二次世界大戦の戦跡や現地の文化に関する施設を中心に訪問しました。また、派遣３日目にはグアム大学を訪問し現地の学生と意見交換を、派遣５日目にはサイパン在住の戦争体験者による戦争体験講話を直接聞き交流しました。今回の派遣テーマである「平和」や「人権」について、グアム･サイパンが歩んだ歴史を通して学びを深めるとともに、現在のグアム・サイパンの人々の考えを伺うことができました。

今回、団員は、現地の人々との出会いや様々な体験を通して、「平和」とは何か、「人権」とは何か、「友好」の重要性など多くのことを学び、感じてきました。この報告書には、これらの学びを通して感じたこと、考えたこと、そして将来への志などが、団員それぞれの言葉でつづられています。

本事業を通して、次代を担う団員たちが、身近な問題から地球上の様々な問題に目を向け、自分にできることを考え、実践してくれることを願っています。また、この報告書を手に取っていただいた皆様にとって、本事業が国際理解の推進と世界の恒久平和について関心を持っていただくきっかけとなれば幸いです。

最後になりますが、本事業を実施するにあたり、ご協力をいただきました全ての方々に厚く御礼申し上げます。

令和６年（2024 年）３月

千代田区 地域振興部 国際平和・男女平等人権課

# 目　次

団員紹介 …… 3

活動スケジュール …… 6

地球市民講座（事前研修会）レポート

■第１回（グアム・サイパンの概要・文化）…… 8

■第２回（グアム・サイパンの歴史１） …… 12

■第３回（グアム・サイパンの歴史２） …… 16

現地報告

■現地行程 …… 20

■活動マップ …… 22

■現地レポート …… 24

■戦争体験講話（David（デビッド） Sablan（サブラン） さん） …… 72

報告会発表スライド …… 76

広報千代田2月20日号　報告記事 …… 86

募集案内 …… 89

巻末特集（写真館） …… 90

# 団員紹介

今年度は、高校生７名、大学生４名、社会人１名の計 12 名が、ツアーに参加しました。

戦争や平和、国際交流など、さまざま想いを抱いて集まった団員の、参加に向けた意気込み・応募動機を紹介します。

団　長

田中（たなか）　翔太郎（しょうたろう）

高校１年

現地の方々の声を聴きたいと思い、ツアーに参加した。グアム・サイパンが関係する第二次世界大戦については教科書でも学ぶことができるが、当時の実情や実際に起きたこと、現地の方々の声は紙媒体では知りえない。だから当事者の声は年々減っていくばかりであり、廃れてしまう可能性すらもある。この状況を打開すべく、私はツアーの一員として現地の人々の声をつないでいく人の一人となりたいと思う。

副団長

栗城（くりき）　英茉（えま）

高校２年

他国の視点からの戦争を学びたい、また国境を越えて戦争と平和について議論する機会がほしいと思い、応募した。国と国の争いが多発している中、個人間での積極的な国際交流が平和に近づくための大切な手段だと考えている。派遣を通して、日本から見た太平洋戦争と、グアム・サイパンから見た戦争の実体と歴史を知ることの大切さ、そして平和のためにすべきことについて現地の方々と話したい。

副団長

中島（なかじま）　悠希（ゆづき）

大学２年

戦争の歴史に対する想いを共有できる仲間とともに学び、成長するチャンスが欲しいと思い、応募した。派遣を通じて「様々な視点から見た戦争の記憶と想い」について学びたい。戦争の記憶は国によっても個々人にとっても全く異なるものだと思うので、その違いを通して異文化理解を深めていきたい。派遣を通して得た学びを自分の言葉で言語化して、戦争という記憶を次世代に伝えていきたい。若者の持つ平和に対する意識が高まる一助となることを目指し、精一杯努力したい。

泉（いずみ）　恵来里（めぐり）

高校１年

「海外事情調査団」としての経験を生かし、世界の歴史や文化についての知識を深め、さまざまな視点から物事を捉えられる人になりたいと思い、応募を決意した。今回の派遣を通して、現地に行って日本では知ることのできない歴史だけではなく、今実際に起きている課題についても直接コミュニケーションをとり、自分の将来に繋げられる機会にしたい。

さかい
酒井　ひなた

社会人

グアム・サイパンを訪れ、日本が受けた戦争被害の視点だけではない戦争の歴史を理解したいと考え、派遣に応募した。アメリカに留学した際、戦争で亡くなったアメリカ人の名前を記念公園で目にし、被害者側だけでない日本の戦争の加害者としての側面を痛感し、戦争に対する見方を変える必要性を感じた。特にグアム・サイパンでは、戦争の影響が現地の文化や人々に及んでおり、この人々のアイデンティティに与えた影響について、訪問と対話を通じ深く学びたい。

てらざわ　たいせい
寺澤　太星

高校１年

現地での国際交流や、教科書とは違う歴史や文化などを知ることができると思い、ツアーに参加した。現地では、国際交流体験を通じて、授業で習うこととは、また違った現地だからこそ味わえる文化などをしっかりと心に留めたいと思っている。

とくなが　えいこ
徳永　栄子

高校１年

中学三年生の時に訪れた広島で、初めて過去の戦争に深く触れ、戦争の影響や平和の尊さを深く実感した。現在も世界で戦争が起きていて、より身近な出来事に感じている。戦争がなく、みんなで平和に向けた努力ができる世の中を作るために私にできることは、戦争の歴史を学んで伝えていくことだと強く感じ、この調査団に応募した。現地で学べることに感謝して、ここで学ぶ平和の尊さを地域や学校で多くの人々に伝えていきたい。

とみた　あかり
冨田　朱莉

大学４年

平和を希求する思考力と行動力を身に付けた人間となるため、派遣に応募した。これまで「戦争はダメ」と学んできたが、「どうすれば戦争が起きないのか?」と問われると答えに窮する。戦争を経験していないからこそ、悲劇を繰り返さない手だてを自らに代入して捉えるべきだ。そこで、大戦の激戦地に赴き、戦争を肌で感じ、当事者意識を持つことが必要だと考えた。派遣では、過去の戦争体験から現代の我々が主体的に捉えるべき平和という普遍的な問いに答えを見出したい。

にしざき　みずほ
## 西﨑　瑞穂

高校１年

戦争を知らない人間として、私は戦争を自ら学び、伝えていかなくてはならない。そうして平和を守ることが、過去に平和のために尽力してきた全ての人々に対する義務だと思う。しかし、一方的な視点で歴史を見れば、更なる争いを生むかもしれない。だから、日本とは違う立場の土地へ行き対話をしたいと思い、派遣への参加を決めた。そこでの対話は、私の視野を広げる過程において大きな価値をもつと考える。

ほしの　ゆうじろう
## 星野　祐二郎

高校３年

派遣への応募動機は2つある。1つ目は、現代の大規模な紛争の深刻さを、私は十分に理解していないと感じたからだ。そして戦争を身近に感じる機会が必要だと感じた。2つ目は、国同士の対立は立場によって意見が大きく変わることに気づいたからだ。国外で戦争を学べば、別視点からの意見を知ることができると考えた。国際交流を通して、戦争と、未来に向けた取り組みの理解を深めたい。

みやざき　こ
## 宮崎　ひな子

大学２年

日本の過去の戦争行為を学び、それを継承する責任を果たすこと、そして日本人自身の戦争体験も同時に共有することを派遣の目的とし、活動を行いたいと考える。今回の研修を通じて、国ごとの歴史の認識や伝えられ方の違いを学び、日本の外交姿勢をどう改善、構築していくべきかを自分なりに考えたい。千代田区の代表として「国際平和都市千代田区宣言」の趣旨を果たせるよう、精一杯努力していきたいと思う。

りゅう　かほ
## 劉　佳帆

大学１年

グアム、サイパンと聞くと南国の美しいリゾート地が想起されるが、そのような平和なイメージとは裏腹に、両島には激しい戦禍を物語る石碑や遺構が残っている。派遣に応募したのは、両島に赴き日常に溶け込むその二面性を体験したいと思ったからだ。恒久平和の実現のためには、日常に隣接する戦争の脅威をいかに察知するかが大切であり、過去の歴史を学ぶことはその視座を養うことにつながる。派遣を通して、平和の価値とその維持しがたさについて学び、将来に役立てたい。

# 活動スケジュール

| 日　程 | 内　容 |
|---|---|
| **説明会**<br>2023 年<br>10 月 19 日(木)<br> | 第1回打合せ会<br>・自己紹介<br>・オリエンテーション<br> |
| **地球市民講座**<br>(事前研修会)<br>第1回<br>10 月 24 日(火)<br> | グアム･サイパンの概要･文化<br>講師：若杉正人さん(グアム政府観光局)<br>岡部恭子さん(マリアナ政府観光局)<br> |
| **地球市民講座**<br>(事前研修会)<br>第2回<br>11 月 10 日(金)<br> | グアム･サイパンの歴史1<br>講師：今泉裕美子さん (法政大学国際文化学部教授)<br> |
| **地球市民講座**<br>(事前研修会)<br>第3回<br>11 月 17 日(金)<br> | グアム･サイパンの歴史2<br>講師：今泉裕美子さん (法政大学国際文化学部教授)<br>第2回打合せ会<br>・ヒアリングシートの作成<br> |

| 日　程 | | 内　容 |
|---|---|---|
| **結団式** | 11 月 30 日(木) | 式典<br>・委嘱状交付　・千代田区長挨拶<br>・令和元年度派遣団長よりメッセージ<br>第3回打合せ会<br>・現地派遣に向けた最終確認 |
| **現地派遣** | 12 月 11 日(月)<br>～16 日(土) | グアム･サイパン<br>※現地報告は、p20～ |
| **報告会** | 2024 年<br>1月 19 日(金) | ・3班に分かれて発表<br>・法政大学今泉教授よりメッセージ<br>・千代田区長より講評 |

# グアム・サイパンの概要・文化

泉 恵来里

## 1 アメリカ合衆国準州グアム

首都：ハガニア　　面積：549 ㎢　　人口：約 17 万人（2022 年）
気候：海洋性亜熱帯気候（平均気温 27℃）　　公用語：英語・チャモロ語

スペイン、アメリカ、日本などさまざまな国から統治されてきた。1950 年にアメリカの準州となり、1967 年には日本から初めての観光客（109 名）が訪れた。以降、日本からの近さや透明度の高いビーチなどを求め 1 年に約 195 万人（2019 年）が訪れている。

観光地としてだけではなく、数多くの史跡・名所を残す学びの場所としても見所を提供している。例えば、首都ハガニアにはスペイン統治時代の優雅な趣を残す建物やスペイン広場などが残っている。他にも、グアムミュージアム、チャモロビレッジ、恋人岬など何度でも訪れたいと思える魅力がたくさんある。

## 2 アメリカ合衆国自治領北マリアナ諸島自治連邦区サイパン市

首都：ススペ　　面積：115.4 ㎢　　人口：約 4 万 3,385 人（2020 年）
気候：亜熱帯気候（平均気温 27℃）　　公用語：英語、チャモロ語、カロリン語

サイパンの東海岸は崖岸が多く、西海岸はリーフ（珊瑚礁）から成っており、ホテルなどは西海岸に集中している。サイパンもグアムと同じく、さまざまな国（スペイン、ドイツ、日本、アメリカ）から統治され、スペイン統治時代が300年ほど続いたため、今でもスペインの名残が多く残っている。

日本は約30年間彩帆島という名前でサイパンを統治していた。その頃、彩帆島では会津若松出身の松江春次氏が製糖事業で成功し、戦前は約５万人の日本人が島内にいた。その功績を称え今でも「キング・オブ・シュガーの像」として砂糖王公園（シュガーキングパーク）に松江春次氏の像が置かれている。

サイパンの北部にはバンザイクリフや日本語で「自殺」を意味するスーサイドクリフ、ラストコマンドポスト（最後の司令塔）、戦時中日本病院として使用されていた建物を改装して建てられた、北マリアナ諸島歴史文化博物館など戦争の被害、出来事を感じられる場所がたくさん存在する。

## 3 準州と自治領

準州は州のような自治領だが、自治権が州ほど強くないという特徴がある。また、グアムは大統領の選挙権を持っていない。

自治領とは、内政は独立しているが、外交と軍事はアメリカが行っている。

引用：
https://www.visitguam.jp/chamorro-culture/simple-chamorro-greetings/
https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/j/rekishi/jinbutsu/jin12.htm

# グアム・サイパンの概要・文化

田中 翔太郎

地球市民講座の第１回では、グアム政府観光局の若杉正人さんとマリアナ政府観光局の岡部恭子さんからお話をいただき、グアム・サイパンの概要・文化、そして現地の様子について学んだ。

まず初めに、グアム政府観光局の若杉正人さんからお話をいただいた。最初の挨拶として「ハファデイ」とおっしゃっていたのがとても印象的である。グアムには公用語として英語、そしてグアム特有のチャモロ語というものが存在する。若杉さんの言った「ハファデイ」はチャモロ語でいう「こんにちは」らしい。スペルで書くと「Hafa A dai.」となる。グアムについて語るこの場においてとてもふさわしい挨拶である。

そして首都ハガニアや、時差などの地理情報についても詳しく教えていただいた。その際、グアムはアメリカの準州だとおっしゃっていた。準州とは、本土未編入の自治領という意味である。そのため州よりも自治権が弱いとされており、日本にはない概念としてとても興味深かった。

加えてグアムがアメリカ領になるまでの経緯や伝統料理、アクティビティについても紹介されたが、その中でもグアムのおすすめスポットは印象的である。悲しい恋の伝説を元に作られた恋人岬や、歴史を学ぶ上で重要なグアムミュージアム、南太平洋戦没者慰霊公苑や太平洋戦争記念館など現地へ調査する際に訪問したいスポットばかりであった。グアムについて、様々な視点から学びたいと思った。

次にマリアナ政府観光局の岡部恭子さんからお話をいただいた。サイパン島は14の島からなる北マリアナ諸島の中心である。準州であるグアムに対し、自治領であるサイパンは内政において比較的大きな自由度を持つ。例えば、中国人はビザなしで短期入国できるなど、アメリカの準州ではできないことができる。そして、サイパン島の大きさについて、グアムが沖縄本島ならばサイパンは石垣島などの離島のイメージだという。そして島の西側は遠浅の白い海でホテルもここに集中している。また、主な観光スポットもいくつか紹介していただいたが、マニャガハ島やタポチョ山など実際に行ってみたいスポットがたくさんあったことも印象的である。

加えて、北部で見られる戦争遺跡としてラストコマンドポストやバンザイクリフについても教えていただいた。ラストコマンドポストとは洞窟に造られた日本軍最後の司令部であり、その周辺にはかつて使われていた兵器も置いてある。バンザイクリフは崖に追い込まれた日本人たちが「天皇陛下万歳」と言って飛び降りた地であり、そこには日本のさまざまな県の慰霊碑が建っている。しかしこのような壮絶な過去があったこの崖も今となってはとても綺麗な海になっているらしい。

このようにグアム・サイパンについて教えていただいたが、過去に起きた出来事が時代の流れによって風化してしまうという点においては、人間の文化としても自然的な面から見ても逆らえないことなのかもしれないと痛感した。その中でも人々の思いを繋ぐことの必要性を、改めて学べた良い機会となったと思う。

# グアム・サイパンの概要・文化

中島 悠希

## 1 グアムの概要・文化

グアムはアメリカ領の準州で、独自の文化や歴史、美しい自然環境を持つ観光地として知られている。グアムの文化は多様で豊かであり、チャモロ文化とアメリカ文化が交わりながら形成されている。公用語は英語とチャモロ語で、グアムの先住民であるチャモロ人はチャモロ語を用いて日常生活を送っている。二言語が共に広く使われ、それぞれが島の独自性と文化を反映している。グアムで使われる一番有名なチャモロ語は「Hafa Adai!（ハファ デイ！）」であり、「こんにちは！」「ようこそ！」を意味する歓迎の挨拶である。

また、日本との時差はわずか１時間であり、グアムのほうが日本よりも１時間早く進んでいる。グアムに来たら欠かせないおすすめスポットは、毎週水曜夕方にチャモロビレッジで開催されるナイトマーケットだ。地元ならではの屋台が数多く集まり、チャモロ料理やメイド・イン・グアムのお土産品を売っている。時には水牛が歩いていたり、チャモロダンスが見ることができたりして、観光地としてとても賑わっている。特にチャモロ料理の中では酸味と辛味が効いた「フィナデニソース」が定番であり、甘辛い醤油ベースの味付けなので日本人にとっても馴染みやすい料理が多い。また、肉・魚・ジャンクフードなど本場アメリカ料理も楽しむことができ、量はもちろんアメリカンサイズである。野菜はほとんどが輸入であるためとにかく高いが、これらに加え、南国ならではの新鮮なトロピカルフルーツを楽しむことができるのがグアムの魅力的な食文化である。

## 2 サイパンの概要・文化

サイパンは「北マリアナ諸島自治連邦区」であり、アメリカ領に属している。サイパンは美しいビーチや自然豊かなアクティビティ、歴史的な遺産が魅力的な観光地である。サイパンの文化は多様で、主にチャモロ文化や西洋文化、日本の影響を受けている。先住民であるチャモロ民族が約９割を占めるが、ほかの民族人との力関係は存在しておらず、平等で平和な国家である。

マリアナ政府観光局･岡部恭子さんによると、サイパンで行うアクティビティが特におすすめで、観光で行くべきスポットは①マニャガハ島、②タポチョ山、③グロット、④禁断の島、⑤バードアイランドだそう。今回の国際交流体験ツアーの旅程には含まれていないため、文字数の関係で説明は省略させていただくが、サイパンを訪れた際は是非行って堪能したい所存である。

日本とサイパンには深いかかわりがあり、日本統治時代のサイパンには日本の町があり、みんな日本人が大好きで日本語を話した。当時、南洋興発の初代社長である松江春次氏という日本人が、サトウキビ栽培と製糖事業で北マリアナ諸島の産業発展に貢献したという過去がある。様々な娯楽施設を建設したり、製糖業の基盤を作ったりして、サイパンの経済成長に欠かせない存在であった松江春次氏は、砂糖王として慕われその功績を称え、のちに有名観光スポットになるシュガーキングパークができる。

これ以外にも、サイパンには日本にまつわる歴史や遺跡が数多く残っており、第二次世界大戦を学ぶうえで必ず知るべき重要な国でもある。以前はリゾート地としてとても栄えていたが、コロナの影響で観光客が減ってしまっている傾向にある。一方、その影響により魚が増え自然がさらに活性化したりなどもしたので、悪いことばかりではないが、やはり観光業は主要な経済資源であるので、ぜひサイパンに興味がある方は訪れてほしいと思う。

# グアム・サイパンの概要・文化

宮崎 ひな子

## 1 グアムの基本情報

【正式名称】アメリカ合衆国準州グアム　【人口】約 17 万人
【気候】海洋性亜熱帯気候　【言語】英語、チャモロ語
【宗教】キリスト教・カトリック（人口の 85% 以上）
【面積】約 549 ㎢（東京都 23 区の約 84%、淡路島と同程度）
【グアムの花】ブーケンビリア

## 2 サイパンの基本情報

【正式名称】北マリアナ諸島自治連邦区サイパン市（アメリカ合衆国の自治領）
【人口】約4万 3385 人　【気候】亜熱帯気候
【言語】英語、チャモロ語、カロリニアン語
【宗教】キリスト教・カトリック　【面積】約 115.4 ㎢
【サイパンの花】プルメリア

## 3 チャモロ語の挨拶

| ＜チャモロ語＞ | ＜英語＞ | ＜日本語＞ |
|---|---|---|
| Hafa Adai | Hello | こんにちは |
| Hafa Lai ? | What’s up? | 調子はどうですか？ |
| Buenas Dias | Good morning | おはようございます |
| Buenas Tatdis | Good afternoon | こんにちは |
| Buenas Nochis | Good night | おやすみなさい |
| Si Yu‘os Ma’ase | Thank you | ありがとう |
| Adios | Farewell | さようなら |

参考文献

・グアム政府観光局　日本オフィス　GUAM インフォメーションガイドブック
・阪急交通社　グアム・サイパン基本情報
https://www.hankyu-travel.com/guide/guam-saipan/country.php

# グアム・サイパンの歴史1

栗城 英茉

## 1 マゼラン上陸から500周年

今回の講座では、主にマゼランのグアム到達の歴史やそれに対して現地の方々の思いについて学んだ。1521年の３月マゼランのグアム島上陸は歴史的に重要な出来事である一方、悲劇的な出来事でもあった。なぜなら、その出来事がヨーロッパ人による植民地化、先住民の同化の始まりだからである。そして、グアム島は“Islas de los Ladrones”(泥棒諸島)と呼ばれるようにもなってしまった。

しかし、グアム委員会は、このような500年に及ぶ古い遺産を正したいと語った。また、グアムに上陸して500周年を記念する行事が世界各地で行われ、I Estoria-Ta委員会は500周年の重要性を象徴するロゴも発表した。

I Estoria-Ta委員会会長ロバート・アンダーウッド博士は、海は私たちをつなぐものであるというメッセージがロゴに表現されていると語った。

出典：
https://m.facebook.com/estoriata/：

## 2 感　想

この講座を聞いて、どの国でも植民地支配の歴史は切り離せない重要な出来事であると実感させられた。植民地支配によって、現在の文化があるということを常に念頭に置いて、派遣を通しての学びを深めていきたい。また、日本もグアムと同じ島であり、私は「島」という孤立したイメージを思い浮かべることが多かったが、「海は私たちをつなぐ」という考え方を聞いてとてもいい考えだと思った。日本でもこの考え方が広まれば、今のグローバル化に積極的になるのではないかと考える。

# グアム・サイパンの歴史1

酒井 ひなた

## 1 歴史を問い直す

グアム島は、マゼランが1521年に上陸した当時、彼によって"Islas de los Ladrones"（泥棒諸島）と名付けられた。彼は上陸後すぐ、現地に住むチャモロ人から歓迎を受けたが、その後彼らがマゼラン一行の船から物を取ったことに怒り、結果、チャモロ人を虐殺してしまった。このチャモロ人たちが船から物を取っていった行為から、マゼランはチャモロ人を泥棒だと認識し、彼らのいる島を"Islas de los Ladrones"（泥棒諸島）と名付けたとされている。

チャモロ人は泥棒だという見方は現在も強く浸透しているが、実際はチャモロ人が船から物を取ったのは泥棒をするためではなく、彼らチャモロ人を含むミクロネシア域内における慣習であった。各島によって言語の異なるミクロネシアでは、島を行き来する際、言葉が通じない代わりに物々交換をすることで互いに友好を示す習慣が当時なされていた。船から降りてきたマゼランに食料等を与えたチャモロ人は、いつものように相手からもモノをもらうことで友好を示そうとしていたのである。このように、マゼランによるチャモロ人の虐殺は文化・慣習の違いから起きたものであったが、チャモロ人が物を取った本来の理由は考慮されることなく、長年グアムは泥棒呼ばわりされてしまった。

一方で、その認識を改めようとする動きが近年進められている。2021年に、1521年３月にマゼランがグアムに上陸してから500年という節目の年を迎えた。またそれに伴い、500周年を記念する行事が世界各地で行われた。そのなかで、公式に泥棒諸島であるという見方を正そうという目的も掲げられており、500年もの長い間正しいとされてきた歴史を、今一度問い直す必要があるのではないか。さらにこのことから、歴史の出来事を正確に理解し、異文化間での誤解を避けるためにはあらゆる立場や相互への尊重と理解が重要だと考える。

## 2 ミクロネシアの文化・思想から学ぶこと

ミクロネシアでは、憲法において「海はつなぐもの」という共通思想がある。この思想の下、自分たちだけではない、海の先にあるミクロネシアの島々や、さらに遠くのヨーロッパの人々、その他移民たちと関わりながら多様な文化を受け入れ、歴史を共有してきた。

このようなミクロネシア地域に共通する文化・思想は他にもあり、人々は科学技術よりも経験や知恵を基に生活をより良くしてきた。また史実を文字で残すのではなく、人から人へ直接口頭で伝えていく方法を大切にしてきた。これらのグアムにおける昔からの伝統と植民地化以降の歴史、その両方がグアムを形成した重要な要素だという考えから、政府は「グアム発見の日」を2014年に「グアムの歴史とチャモロの伝統遺産の日」とし、子どもたちが古代から現在までの歴史や文化を学び、継承することを促進している。昔からの現地の伝統だけでなく、他国との歴史・文化をも共に大切にし、継承し、チャモロ人のアイデンティティとして形成していくこの姿勢は、近年、国家や民族間等の対立が激化したり、移民等の人の移動が激しくなっていたりするなかで、多文化共生と平和の実現のために学ぶべきものであると感じた。

さらに近年は、フィリピン等、周辺諸国からの移民も増加し、チャモロ、スペインなどにとどまらない非常に複雑な人口構成になっている。そのため、先住民であるチャモロ人だけでなく、同時にそれ以外の複雑なアイデンティティを持つ人々にも焦点を当て、今後は多様な文化が混在するミクロネシア全体を幅広い視点で見ていく必要があると考えた。

# グアム・サイパンの歴史 1

徳永 栄子

## 1 マゼランとチャモロの歴史

紀元前2000年～1500年当時の東南アジアあたりからマリアナ諸島で幾度に渡り人々が来島、定着、そして1521年３月マゼラン率いるスペインの遠征がグアムに上陸し、マゼランはグアム島を“Islas de los Ladrones”(泥棒諸島)と命名した。

## 2 歴史的な出来事から500年

マゼラン一行が上陸して500年が経った2021年３月。その日に合わせてグアム島上陸500周年の記念行事が開催された。またそれに向けて組織された I Estoria-Ta委員会によって記念のロゴも発表された。このロゴはグアムの伝統的な投げ石(紐に石が巻き付けてあり、それを回して武力として使われていたもの)を型どりデザインされ、青い水面にチャモロの船とスペインの船が並んで前進する様子を描いており、このロゴは２つの船がバランスを保ち、対話することを表している。

この日に際してグアムの委員会は「泥棒諸島と命名したその古い遺産を正したい」と語った。また、「月には人は住んでいなかったんだ」という言葉がある。この言葉は、「グアム島にはあなた方が来る前から我らが(チャモロ人)が住んでいたのだ」という意味である。しかし、マゼラン一行はボートを１隻盗まれたことを発端として、50軒の家を焼き払い、７人の島民を殺していたという歴史がある。

## 3 マゼラン一行とチャモロ人の歴史を子供たちに

マゼランが上陸した日は、毎年子供たちが歴史の流れを表すダンスをする。最初はマゼラン一行が上陸し、チャモロから歓迎を受ける。グアム政府はこの日を公的な休日とし、「グアム発見の日」(Guam Discovery Day)という名前としたが、ヨーロッパ人によるグアム島の発見はヨーロッパ人による先住民の植民地化、同化の始まりという認識に基づいて、2014年に「グアムの歴史とチャモロ伝統的遺産の日」(Guam History and Chamorro Heritage Day)に変わった。この目的は、子供たちにグアムの歴史や文化、遺産などを教えること、先祖からのチャモロ文化や価値観を育むためである。

## 4 500周年の記念行事を経ての変化

グアムと北マリアナ諸島における植民地化に関する考古学的プロジェクトが、双方のre-counter(再遭遇)であり、スペイン政府文化スポーツ大臣は「今回の企画は歴史を再構築し、書き直すことであり、相互理解の視点から文化的な出会いを広げること」と述べており、双方の考え方や歴史の捉え方に変化が起きたと言える。

## 5 今回の講義を受けての感想

自分が思っていたより形成された歴史は深く複雑で、現在では文化や伝統が重要視され観光業が盛んなイメージがあるグアムだが、このマゼランとチャモロの出会いが大きく影響していると感じた。今回の講義を受けて、マゼラン一行とチャモロ人との出会いは、友好的な文化の交流や影響をもたらした一方で、この出会いにより、後に植民地支配が進み、独自の文化や伝統を築きながらグアム島に住んでいたチャモロ人との関係が複雑化してきた歴史を学んだ。

# グアム・サイパンの歴史1

星野 祐二郎

## 1 マゼランのグアム島上陸500周年からサイパン島、グアム島の歴史を学ぶ

スペインによる遠征が、1521年3月にグアムに上陸して500周年を記念する行事が世界各地で準備されているが、グアム委員会は、グアム島を「泥棒諸島」と決めつけてきた500年に及ぶ古い遺産を正したいと語った。人々のグアムに対する認識が変わってきているなか、この行事は公的な方法を通じて「泥棒諸島」を正す良い機会だと考えられている。

I Estoria-Ta委員会がその目的を定め、500周年の重要性を象徴するロゴを発表した。そのロゴのデザインに込められたメッセージは、「海は私たちを隔てるものではない。海は、ミクロネシアや太平洋の隣人たちをつなぐ。そして、ヨーロッパから海を越えてやってきた人と私たちをつなぐもの」である。また、一方の船が他方の船の先を行ったり、片方の船がもう一つの船を見つけたりしていない。これはバランスを取り、対話することの大切さを象徴している。

(ロゴの出典　https://www.facebook.com/estoriata/)

グアム政府が定めた公的な休日。ヨーロッパ人によるグアム島の「発見」は、ヨーロッパ人による先住民の植民地化、同化の始まりとの認識に基づき、2014年に名称を「グアム発見の日（Guam Discovery Day）」から「グアムの歴史とチャモロの伝統的遺産の日（Guam History and Chamorro Heritage Day）」へ改称した。その理由は、名前を変え、違った考えで休日を過ごしたいというグアム人の意見からである。

## 2 マリアナ歴史会議からサイパン島、グアム島の歴史を学ぶ

今年で６回目となったマリアナ歴史会議、2013年6月に開催された第一回マリアナ歴史会議のテーマは「１つの諸島、多様な物語(One Archipelago, Many Stories)」であった。この会議では３つのことを確認した。１つ目は「マリアナ諸島がヨーロッパからの来航者により、彼らの視点から１つの諸島として名付けられ、スペイン、ドイツ、日本、アメリカによって２つの地域に隔てられてきた歴史を見つめ直す」。２つ目は「支配者が文字によって、支配者の視点から記録したものが『歴史』とされ、公教育の場で学ぶことを強いられてきた経験」。３つ目が「多様性や世代、女性の役割の大きさ、そして様々な植民地支配によって生み出されたルーツについて」である。

植民地支配の経験は現在まで影響している。支配からどう自己決定権を、アイデンティティを求めるのか。「関係を切るのではなく紡ぎなおす、問い直すのが大切である。」と今泉教授は述べた。

## 3 感　想

今回の講座は、法政大学国際文化学部教授、今泉裕美子さんが担当した。教授の説明は分かりやすく、長年専門的に研究されてきた上で語られる教授の見解は、歴史の理解、歴史を学ぶ意義などについても、再度考えるきっかけになったと考える。「平和とは与えられるものではなく、実現していくべきもの」、今泉教授がおっしゃったこの言葉は、現代人にとって大切な言葉だと考える。

## 第3回地球市民講座で学んだこと

寺澤 太星

グアム・サイパンと聞くと、誰しもが真っ先にリゾート地として思い浮かべると思う。実際、自分もその1人である。恵まれた自然を最大限に生かしたスポーツや海水浴、食べ物などがある。しかし、その背景には複雑な歴史があった。以下、第３回地球市民講座で学んだことをまとめていく。

マリアナ諸島は元々、紀元前から、現在の東南アジアの人々が幾度と行き来し定着していった。しかし、マゼラン上陸からスペインの支配下となり、その後、米国、日本に支配を移していった。

ところで、グアムなどに送られた日本兵は何も知らされずに送られたそうだ。実際に元兵士の永田茂氏が「日本では『戦争で死ぬのは尊いこと』、米国では『命を大切に』という『命』に対する考え方が大きく異なったように感じた。」と話している。当時の日本が、「戦争に勝つためには何をしても良い」という思想のもと動いていたのであろう、と推測できてしまう。それは例えば、「ファハの虐殺」、David　Sablan氏や久永義仁氏の証言などから伺える。

当時の日本支配下での南洋諸島では、ある暗黙の序列が存在していたそうだ。一等国民として「内地人」（沖縄を除く日本人）、二等国民として「沖縄人・朝鮮人」、三等国民として「島民」という序列があった。島民は日本の教育を受けていたそうだ。実際に現在のグアムやサイパンにおいても、日本語を話せる人はいくらかいるそうだ。

以上がざっくりとした講義で学んだことであるが、ここから私たちは何を学ぶべきなのか。サイパン戦は初の民間人を巻き込んだ地上戦とも言われている。このような重い歴史があったことを決して忘れてはいけない。後世に伝えていく必要がある。例えば、現在の南洋諸島の地域では、戦争経験者が子どもたちに自らの戦争体験を話して、それを絵として示すなどの交流継承が行われているそうだ。日本でもグアム・サイパンに限らず、子どもたちに多くの過去の歴史を伝えて、考えさせる機会などを作っている。戦争は果たして本当に防ぐことはできなかったのか、この講義を聞いて強くそう思った。

第二次世界大戦の死者数は約5,000万～8,000万人と言われている。一般人を含めた、このような多くの犠牲があったことは決して無視できない。当時の人々は常に「死への恐怖」に怯えながら生きていたのだと思うと胸が苦しくなる。当たり前のことかもしれないが、この講座のお陰で、改めて今ある幸せに感謝したいと思った。現地では、戦争経験者の話を聞いたり、記念館を訪れたりするため、その頃のグアム・サイパンの状況などを詳しく知ろうと思う。

# “The Typhoon of War” ―戦争に翻弄される人々の暮らし―

冨田 朱莉

## 1 グアム島における米軍による軍事基地化

米軍は1898年に勃発した米西戦争の一環として始まった米比戦争で、ハワイ諸島オアフ島真珠湾を米海軍基地として重視し活用した。それ以来次第にアジアに向かって西に勢力を広げ、グアム島は米軍の重要な軍事拠点となった。

特に1905年の日本の日露戦争での勝利や、アメリカ本土やハワイでの日本人移民の急増で次第に対日脅威論が強まるようになる。当時、グアム島の３分の１の領土が米軍基地となり、現地住民の意思とは関係なくアメリカによる植民地化に巻き込まれることとなった。グアム大学教授のシャスター氏は、グアム島は当時アメリカにとって軍事的目的からくる「不動産」に過ぎず、そこに暮らす現地人の存在には目を向けられていなかったと分析する。

## 2 サイパン島における日本軍による植民地化と軍事基地化

### 2－1 日本の委任統治下のサイパンの産業

第一次世界大戦の結果、ドイツから日本へ南洋群島の委任統治が移り、以後日本によるサイパン島統治が20年以上に渡って続くこととなる。日本政府が特に重要視した経済開発の分野においては松江春次氏(1876-1954)の活躍が大きい。彼は南洋興発(株)を設立し、サイパン全土において大規模なプランテーション経営を実施し製糖業を中心に多くの事業を成功させた。南洋興発(株)の事業の発展により多くの雇用が生み出され、彼は現地の人々からも慕われたという。

### 2－2 現地のコミュニティと戦争による被害

日本の委任統治を皮切りに、東京や沖縄、朝鮮半島、台湾、樺太からの移民が急増した。産業の発展と共に人々の生活は豊かとなったが、そこには暗黙で明確な人種差別が存在していた。内地人である「日本人」を一等国民、沖縄や朝鮮出身の人々を二等国民、現地島民を三等国民とする序列である。「三等国民」であるサイパン島民の子ども達は「公学校」に通い日本式の教育を受けることを強要された。

第二次世界大戦が始まり、南洋興発(株)を筆頭にサイパン島全域が日本軍と一体化し決戦に臨むこととなる。米国の日本本土への襲撃を防ぐ目的で設定された「絶対国防圏」の一部であったサイパンだが1944年に米軍によって陥落する。サイパン島の戦いは民間人が住んでいながら米軍が攻めてきた最初の地上戦の舞台となり多くの犠牲を生む結果となった。

参考文献

Donald. Shuster. R. 2019. Guam and Its Three Empires, Guampedia.
https://www.guampedia.com/guam-and-its-three-empires/
（2023年11月24日アクセス）

# グアム・サイパンの歴史2

西﨑 瑞穂

## 1 グアム・サイパン戦での経験

**・グアム島での経験**

1944年7月、日本によって占領されてから、グアム島は米軍と日本軍との戦争に巻き込まれていく。日本軍による島民への虐殺は各地で起こり、多くの罪なき命が失われた。

**・サイパン島での経験**

日本軍がやってきたことで、島民は自分達の生活を変えることを余儀なくされた。米軍へのスパイ活動を疑われ、日本軍に家にあった本をすべて燃やされた人もいた。

## 2 なぜこのようなことが起こったのか？

グアム・サイパンは軍事的な要地として注目されていた。南洋群島は日本にとって、日本の南方進出の拠点として、アメリカの太平洋渡洋作戦対策の要地として、そして「文明化」のアピールとして価値があった。

**・委任統治**

南洋群島は日本の委任統治領だった。委任統治とは国際連盟規約に定められた統治のことである。

委任統治は、国際連盟規約によると、先進国が後進国などの発展を支援するもので、これが「文明の使命」とされていた。ここには、統治する側の国への制限や条件などもある。例えば、軍事的な利用の制限や、信教の自由、奴隷的処遇の禁止などである。

**・南洋庁**

南洋群島には、海軍武官を長官とする、南洋庁という施政機関がおかれた。

**・南洋群島社会の特徴**

南洋群島には現地住民のほか、日本人や朝鮮人などが住んでいた。島には、暗黙の序列があったといわれており、一等国民が本土などからきた内地人、二等国民が沖縄から来た人や朝鮮人、三等国民が島民だった。

**・戦時体制**

日本は国際連盟脱退後、軍事施設を急速に建設する。日本兵がサイパン島に大勢やってきて、やがて絶対国防圏が設定された。南洋興発も全面的に日本軍に協力し、決戦体制ができた。

**・マリアナ諸島での戦争**

戦争は多くの犠牲者を出し、サイパン島では在住者、民間人日本国籍保有者約20,000人、現地住民約4,000人のうち日本国籍保有者約10,000人、米軍約3,500人、現地住民約900人が死亡したとされている。

**・非現地住民の引き揚げ**

戦後は日本各地で南洋群島帰還者会の設立・再移民の要求、戦時補償要求から遺骨収集・慰霊と交流へ、そして現在に至る。

# グアム・サイパンの歴史 2

劉 佳帆

## 1 自分たちはどのような経験をしたのか①
## ― “The Typhoon of War” とは

**●チャモロ、カロリニアンにとって第二次世界大戦=台風**

・自分たちの意志と関係なく行われた
・土地、人、作物などあらゆるものを破壊
・しかし、天災である台風とは違い、戦争は人が起こす人災である

**●永田茂さんの証言**

・米軍と日本軍との「命」の考え方の違いを目の当たりにした
・米軍に投降した永田さんの仲間は負い目を感じて旧友に会うことを拒み続ける

**●日本軍占領下のグアム島―メリッソ**

・ファハの虐殺：日本軍がチャモロ人住民を殺害
・デビッド・サブランさんの証言：姉がオルガンを弾いていたことがスパイ活動をしているとみなされた

**●久永義仁さんの証言**

子供の泣き声が米軍の通信に検知されると爆撃されるとの理由で軍人が姉の子を殺した

## 2 自分たちはなぜあのような経験をしなければならなかったのか？②
## ―植民地化と軍事基地化との関係

**2－1 グアム島とサイパン島―異なる経験、共通する経験**

両島は元々つながりを持っていたが、植民地化の過程で分断されてしまった
両島は日米双方にとって重要な軍事基地である

・グアム島は米海軍統治が始まってから基地化が進みアメリカの軍事植民地となった
・サイパン島はドイツから日本に委任統治権が移ってから日本の対米戦争の兵站基地となった

**2－2 サイパン島―委任統治と戦争**

・日本にとって南洋群島を統治下におく意義は、東南アジアを含む経済資源豊かな南方進出の拠点として開発することにあった
・南洋群島は台湾や朝鮮半島のような日本の領土ではなく、あくまで委任統治であるため、日本語教育を行ったことが国際連盟から非難された
・日本政府は経済開発を重視し、南洋興発(株)が松江春次社長のもとで事業を展開した
・南洋群島の人口に占める日本人の割合は1915年は1%未満であったが、1943年には20%弱まで増加した。中でも沖縄人の数は日本人全体の半数以上を占めていた。
・太平洋戦争の局面が悪化し決戦体制を整えるため南洋興発(株)は行政の指揮下におかれた
・大本営は「サイパンの我が部隊/全員壮烈な戦死/在留邦人も概ね運命を共に」と発表したが、実際には米軍に保護されて生き延びた人もいた
・初めて民間人がいる土地に米軍が攻め込んできた経験、という意味ではサイパン戦は沖縄戦に続く系譜の初めである

## 3 まとめにかえて

**自分たちはなぜあのような経験をしなければならなかったのか？**

・現地との交流を通じた関係の結び直しが必要である
・交流継承により若い世代へ強い思いを伝えていく